

だいよんき

しもぎょうく

第Ⅳ期 下京区

ちいきふくしかつどうけいかく

地域福祉活動計画

しもぎょう

けいかく

(下京やさしいまちづくり計画2025)

あた

せいかつ

と

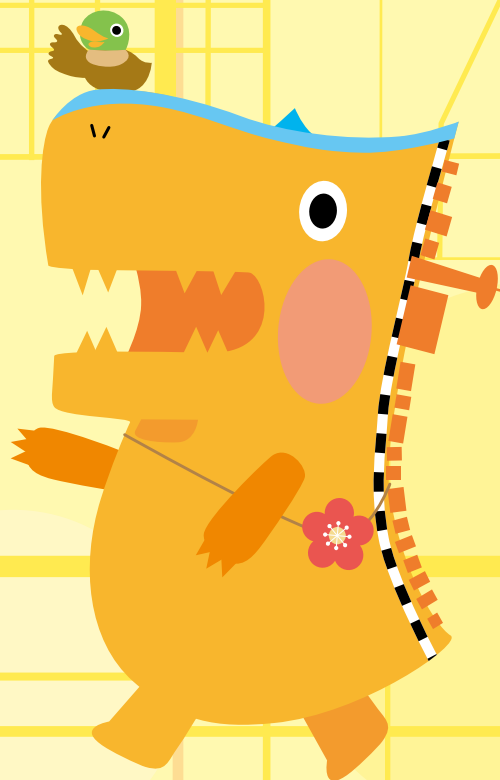
い

ちいきかつどう

てんかい

～「新しい生活スタイル」を取り入れた地域活動の展開～

Shimogyo Ward Community Development Planning 2025



社会福祉法人 京都市下京区社会福祉協議会

下京区地域福祉推進委員会

だいよんき しもぎょうく ちいきふくし かつどうけいかく
第Ⅳ期 下京区地域福祉活動計画
 しもぎょう けいかく
 (下京やさしいまちづくり計画2025)

あた せいかつ と い ちいきかつどう てんかい
 ~「新しい生活スタイル」を取り入れた地域活動の展開~

もくじ
目次

1	ちいきふくしかつどうけいかく かんが かた 地域福祉活動計画の考え方	P1
2	けいかくさくてい はいけい 計画策定の背景	P2
3	けいかく す 計画のイメージ図	P4
4	くしゃきょう きほん 区社協の基本アクション	P5
5	ちいき 地域のチャレンジアクション	P8
6	か ちいきかつどう てんかい コロナ禍での地域活動の展開 ~こんなときだからこそ!地域活動~	P11

昨年度、第Ⅳ期下京区地域福祉活動計画を策定しましたが、新型コロナウイルス感染症の流行拡大に伴い、当初計画していた事業実施が難しい状況になっています。そこで、本誌ではwithコロナに適応した「新しい生活スタイル」を取り入れた地域活動展開をご紹介します!



僕たちがナビゲートしていくよ!



1 ちいきふくしかつどうけいかく かんが かた
1 地域福祉活動計画の考え方

1 ちいきふくしかつどうけいかく
1 地域福祉活動計画とは

「地域福祉活動計画」は、地域社会にある住民の暮らしや福祉の課題を解決することを目標として、地域住民・地域福祉活動を行う関係機関や団体、社会福祉事業を実施する施設や機関との協働、行政とのパートナーシップのもと、社協が中心となって策定する民間の計画です。



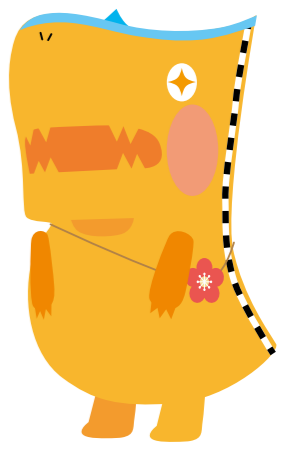
2 しもぎょうく ちいきふくしかつどうけいかく
2 これまでの下京区における地域福祉活動計画

下京区社会福祉協議会では、これまで実施してきた地域福祉活動や事業を振り返り、地域住民・地域福祉活動を行う関係機関や団体、社会福祉事業を実施する施設や機関の方々の想いを明らかにすることで、下京区における地域福祉の課題を整理し、「地域福祉活動計画」を策定し、実践・推進してきました。



名称	推進期間
下京区地域福祉活動発展計画(第Ⅰ期計画)	平成15年~平成19年(2003~2007)
区・学区社協KAIZENプラン2008	平成20年~平成21年(2008~2009)
第Ⅱ期下京区地域福祉活動計画	平成22年~平成24年(2010~2012)
第Ⅲ期下京区地域福祉活動計画	平成25年~令和元年(2013~2019)

こんなにたくさんの計画を策定して、地域福祉活動を展開してきたんだ~



3 けいかく きかん
3 計画の期間


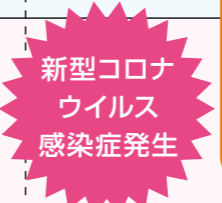
令和2年度~令和6年度(2020~2025)

4 けいかく しんこうかんり
4 計画の進行管理

地域状況の変化、法制度の改正や社会情勢等をふまえ、中間年(令和4年(2023))での見直しを行い、最終年(令和6年(2025))には次期計画づくりに向けた作業を行います。

また、課題等の情報共有をする場として、学区社会福祉協議会会長会議、下京区地域福祉推進委員会での進捗確認、報告、意見交換等を行います。



	2013(平成25)年	2014(平成26)年	2015(平成27)年	2016(平成28)年	2017(平成29)年	2018(平成30)年	2019(令和元年)年	2020(令和2年)年	
法改正など		京都市 ●不良な生活環境を解消するための支援及び措置に関する条例施行 京都市社協 ●社協行動指針策定	国 ●生活困窮者自立支援事業 ●介護保険制度の改正 ●子ども子育て支援制度	国 ●社会福祉法改正 (社会福祉法人制度改革) 京都市 ●介護保険制度改正 (総合事業「地域支援事業」の創設と生活支援サービスの充実)	国 ●社会福祉法改正 京都市 ●保健福祉センター再編 京都市社協 ●行動指針 改訂版	国 ●社会福祉法改正 ●生活困窮者自立支援法改正 ●地域共生社会の実現  京都市 ●京・地域福祉推進指針策定 京都市社協 ●京都市の社協基本構想策定			
区社協・学区社協の動き		区社協 ●地域あんしん支援員の配置	区社協 ●生活支援サービス実態調査 ●見守り支援の手引き 下京区版作成委員会組織化 学区社協 ●健康すこやか学級事業の見直し	区社協 ●地域支え合い活動創出コーディネーター配置 ●区社協カフェ「ぱれっと」開始 ●「みんなでたすかる防災」開始 ●地域協議会の創設 学区社協 ●すこやかカフェの開始(尚徳) ●ちよいポラの推進(有隣)	区社協 ●「下京区高齢者の便利帳シニアお出かけマップ」	区社協 ●学区社協実態調査 ●「下京やさしいまちづくり会議」開催 学区社協 ●学区社協活動総合推進事業見直し			
災害の発生		広島の土砂災害	関東・東北豪雨	熊本地震(※災害VC派遣)	九州・北部豪雨 平成29年台風21号	大阪府北部地震 西日本豪雨(※災害VC派遣) 北海道胆振東部地震	令和元年 東日本台風(19号)(※災害VC派遣)		

第Ⅳ期下京区地域福祉活動計画策定 下京区やさしいまちづくり計画2025



テーマ
 あなたに・みんなにやさしいまちづくり
 ~京都でいちばん、誰もが“その人らしく”
 “安心して”暮らし続けられる、みんなで
 “顔の見える関係”になれる
 2025年の下京のまち~

区社協の基本アクション

- ①風土をつくる
- ②寄り添い 共に考える
- ③災害に強いコミュニティづくり

地域(学区社協・各種関係機関及び団体・下京のまちで暮らす方)のチャレンジアクション


- ①人を育てる まちが育つ
- ②居場所をつくる 笑顔がふえる
- ③出番をつくる 活躍できる

社会の変化

- 家族形態の変化 (核家族、単身世帯の増加)
- 雇用形態の変化 (非正規雇用の増加)
- 少子高齢化

↓

きょうどうたいきのう ぜいじゃくか
共同体機能の脆弱化・担い手不足
にな て ぶそく




社会的孤立の増加を背景とした課題

8050問題	ダブルケア
セルフネグレクト	生活困窮者の増加
ひきこもり	ゴミ屋敷
制度の狭間	

↓

ふくざつか たようか
複雑化・多様化

様々な要因が重なり、課題が周囲から見えにくくなり、発見が遅くなり、複雑化・多様化している傾向にあります。



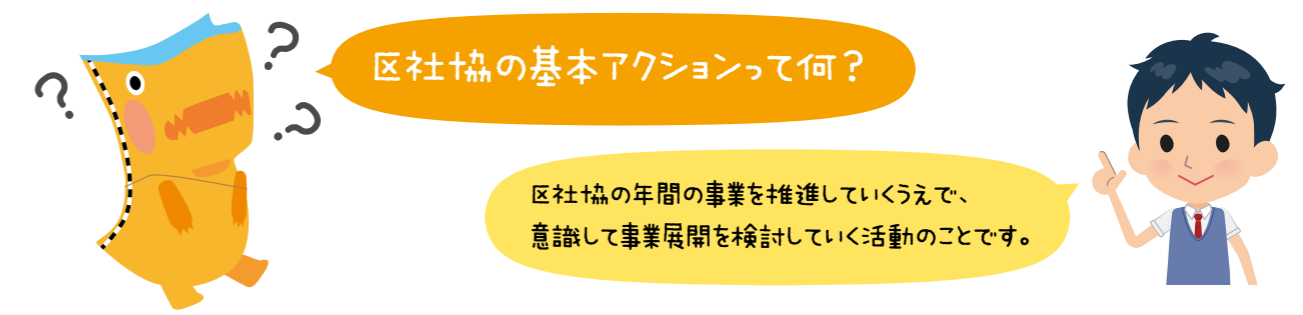
下京区の特徴を見てみよう!

- ひとり暮らし世帯の割合 59.2%
- 昼間人口が夜間の人口の1.7倍 (下京区に通勤、通学している人が多い。)
- 15歳~64歳人口が市内で一番割合が高い 67.1%
- 人口は増加傾向にある 82,668人(2015年) →88,177人(2025年推計)

3 計画のイメージ図



4 区社協の基本アクションの取り組みについて



基本アクション1 風土をつくる

1 新たな地域福祉活動の担い手、理解者が生まれる風土をつくります。

より多くの住民に地域福祉活動に関心を持ってもらうことが大切です。これまで地域活動にかかわりのなかった人に活動を知ってもらうために、世代に応じた情報発信の充実を進めていきます。また、参加しやすい講座、関心の高い福祉教育・生涯学習を進めていきます。

(連動する事業: 学区社協支援事業、区ボランティアセンター事業、日常生活自立支援事業、地域支え合い活動創出事業、地域福祉推進委員会)

2 困りごとを抱えた方に寄り添い、共に考えることができる風土をつくります。

社会的孤立の増加を背景とした8050問題、ひきこもり、ごみ屋敷など地域に課題は複雑化・多様化しています。地域だけでは対応困難な課題を抱えた方に寄り添い、それぞれの多様性を認め合い、理解を促進する取り組みを進めていきます。

(連動する事業: 日常生活自立支援事業、地域あんしん支援員設置事業、生活福祉資金貸付事業)

区社協の各種事業との連動性とコロナ禍での取り組みについて

区社協事業との連動	コロナ禍で活動の展開
会務運営事業、学区社協活動支援事業などにおける 研修会、情報交換会などの開催	<ul style="list-style-type: none"> ● YouTubeによるライブ配信およびアーカイブ配信の実施 ● オンラインツールZoomを活用した会議開催
区ボランティアセンター事業における 福祉教育、講座の開催 情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ● オンラインツール活用講座の開催 ● 動画を作成し、講座や啓発活動の実施 ● 様々な手段を活用した情報発信の実施
日常生活自立支援事業、地域あんしん支援員設置事業における 事例共有および情報発信の実施	<ul style="list-style-type: none"> ● 研修会などでの事例共有の実施
地域支え合い活動創出事業における 入門講座の開催 実務者会議の実施	<ul style="list-style-type: none"> ● ゆるやかな見守り活動の提言～わんわんパトロール～ ● 見守り活動促進ツールの作成、啓発
地域福祉推進委員会における 実態調査および課題の発信	<ul style="list-style-type: none"> ● 活動者アンケートの実施 ● アンケート結果に基づく地域活動の創出

基本アクション2 **寄り添い 共に考える**

1 学区社会福祉協議会、各種関係機関・団体及び多様な主体(福祉施設、企業、NPO)に寄り添い、共に考えます。

現在、国では、「地域共生社会」の実現に向けた地域づくりへの取り組みが進められており、多分野協働の活動の機運が高まっています。

これまでつながりが薄かった多様な関係者が新たに出会い、気づきや学びを得て、共に地域づくりをしていくために、各団体の想いや悩みに寄り添い、地域と連携・協働する活動を支援します。

(連動する事業:学区社協支援事業、区ボランティアセンター事業、地域あんしん支援員設置事業、地域支え合い活動創出事業、地域福祉推進委員会)

2 困りごとを抱えた方に寄り添い、共に考えます。

社会的孤立の増加を背景とした8050問題、ひきこもり、ごみ屋敷など地域の課題は複雑化・多様化しています。支えを必要とする方への支援の充実を図り、誰もが住み慣れた地域で生活できるよう支援します。

(連動する事業:学区社協支援事業、区ボランティアセンター事業、日常生活自立支援事業、地域あんしん支援員設置事業、地域支え合い活動創出事業、地域福祉推進委員会)

区社協の各種事業との連動性とコロナ禍での取り組みについて

区社協事業との連動	コロナ禍で活動の展開
会務運営事業、学区社協活動支援事業などにおける 区社協カフェ“ぱれっと”の実施 学区との情報交換会(ヒアリング)の実施	<ul style="list-style-type: none"> ● 感染症対策を行い持続可能な居場所づくりの実施 ● 参加者の特技を見出すプログラム作り ● オンラインツールを活用したヒアリング ● 学区分析、支援プラン検討会議の実施
ボランティアセンター事業における 子どもの居場所サポート事業の展開 総合相談の実施	<ul style="list-style-type: none"> ● オンラインツールを活用した会議、情報交換会の実施
日常生活自立支援事業、地域あんしん支援員設置事業における 継続したよりそい支援の実施	<ul style="list-style-type: none"> ● 情報提供や、手紙を活用した支援の実施
地域支え合い活動創出事業における 居場所づくり・サービスの創出	<ul style="list-style-type: none"> ● コロナ禍でも持続可能な居場所づくり、サービス企画、立案
地域福祉推進委員会における 施設との情報交換会の実施	<ul style="list-style-type: none"> ● オンラインツールを活用した会議、情報交換の実施 ● アンケート調査の実施



基本アクション3 **災害に強いコミュニティづくり**

1 仕組みづくりと日ごろからの活動を通して、災害時要配慮者支援について検討します。

災害発生時に、地域で円滑に安否確認を行うためには、日ごろからの要配慮者の把握と見守り体制の構築が重要です。学区社協、福祉関係団体が取り組んでいる各事業に要配慮者支援の視点を取り入れられるよう活動支援を行います。

(連動する事業:学区社協支援事業、区ボランティアセンター事業、日常生活自立支援事業、地域あんしん支援員設置事業、地域支え合い活動創出事業)

2 区災害ボランティアセンターの設置、運営による災害への備えと支援を行います。

日頃から関係機関との連携を深め、定期的な訓練の実施、年代に応じた講座を企画し、災害に関する理解を深める活動を進めます。

(連動する事業:区ボランティアセンター事業)

区社協の各種事業との連動性とコロナ禍での取り組みについて

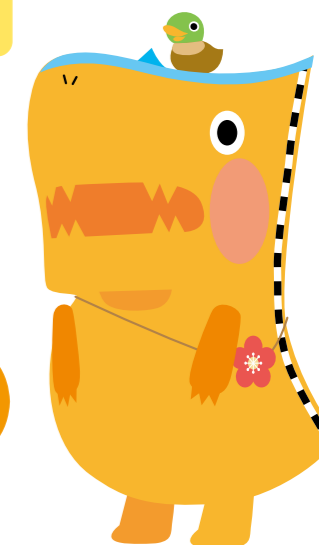
区社協事業との連動	コロナ禍で活動の展開
学区社協活動支援事業などにおける 学区における災害時要配慮者支援活動への取り組みの推進	<ul style="list-style-type: none"> ● 見守り名簿を活用した見守り活動の充実 ● 災害時要配慮者支援のあり方の検討 ● 研修会の開催 ● 当事者団体へのヒアリングやアンケート調査の実施
ボランティアセンター事業における 区災害ボランティアセンター設置運営訓練の実施 防災に関する講座の開催	<ul style="list-style-type: none"> ● 災害ボランティアセンターの周知、啓発 ● 市災害ボランティアセンターと連携した講座の開催

基本アクション3までご紹介しました。経験したことがない感染症の流行で、手探りで事業を進めている状況です。「こんなときだからこそ必要なこと・しなければいけないこと」がたくさんあります。下京区社会福祉協議会では、地域の方が求めていることを把握し、発信し事業を推進していきたいと思っています。



こんなときだからこそ、考えられることはたくさんあるなあ。色々な状況に応じて対応していくことが求められているんやね。

「つながりを切らない」取り組みを継続していくことって大事!



5 地域のチャレンジアクション



地域のチャレンジアクションって何？

学区社会福祉協議会、各種関係機関及び団体、下京で暮らす方々が、地域活動を「やってみたい!」と思った時に参考にしたい活動のことです。



チャレンジアクション1 人を育てる まちが育つ

テーマ設定の背景

- 地域の間関係が希薄化する中で、担い手不足が課題。担い手不足を解消するためには、人を育て、まちを育てていくことが必要です。
- パブリックコメントでは、「実態把握や調査」「研修会、学習会、生涯学習」の重要性を問う意見が多くありました。

まずは住んでいる地域を知ることが大事な! どうやったら出来るんやろ?



1 取り組み推進のイメージ

①実態調査、ニーズ調査の実施

- 住民の困りごと、要望を把握するための調査活動

②住民向けの福祉教育、生涯学習の実施

- 認知症やこころの病、障害に関する勉強会
- 年齢に応じた地域福祉への関心を高められる福祉教育や生涯学習
- 防災、要配慮者に関する講座

③役員向けの勉強会、研修会の開催

- 地域あんしん支援員設置事業や日常生活自立支援事業の周知啓発
- 当事者団体や関係機関と連携した勉強会の開催

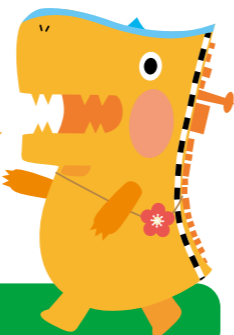
④広報紙の発行

- 学区、団体の活動方針の情報発信

活動でお困りの際は、区社協までご相談ください!一緒に考えましょう!



京都市内の先駆的な取り組みを紹介するよ!一緒に見てみよう!



2 事例紹介 ~学区全体で取り組む防災活動(上京区 正親学区)~

上京区の正親学区では、学区内の各種関係団体、施設等と連携し、防災の取り組みを進めています。



正親防災の日災害時要配慮者の見守り訪問活動の様子 (町内会長、自主防災会会長、PTA役員)



正親防災の日「子ども防災ゲーム」

課題

- 防災活動を継続している中で、学区の一部の人しか参加していない。
- とりわけ、若い世代(子ども~40代)の参加が少ない。

仮説

- 子どもを巻き込むことで、若い世代(20代~40代)の参加も促進するのではないかと。
- 小学校の福祉教育で「災害時要配慮者」をテーマに防災学習ができれば、学区の防災活動も広がるのではないかと。

実施

- 小学校PTAと連携し、防災訓練時に、訪問を希望する独居高齢者世帯と、児童のいる世帯に対し見守り活動の実施。
- 小学校へ学区の防災活動について報告し、「災害時要配慮者」をテーマにした防災学習を提案。
- 学区役員、民生児童委員、地域包括支援センター、小学校、区社協が連携し「防災教育」を実施。

児童の意見

- 災害が起こったときに、助けが必要な人がいることが分かった。
- クイズ形式で楽しく学べた。

役員の意見

- 小学校と連携することで、学区の取り組みを小学生にも知ってもらう機会となった。これを機に学区への愛着を持ってほしい。

居場所をつくる 笑顔がふえる

テーマ設定の背景

- 核家族や単身世帯が増加する中で、社会的に孤立している人も多く、地域と繋がれる場を求めている人が非常に多く、気軽に集える場が必要です。
- パブリックコメントでは、多世代がまぜこぜ、ごちゃまぜに交流できる場づくりを求める意見が多くありました。

1 取り組み推進のイメージ

①居場所づくり活動の実施

- 子どもの居場所づくり~子ども食堂、学習支援、子育てサロン~
- 多世代が集まれる居場所づくり
- 学区域、分野を超えた居場所づくり
- 当事者が活躍できる居場所づくり
- 多様な運営主体と連携した居場所づくり
- 園芸を通じた居場所づくりの展開

②健康すこやか学級の実施

- 男性も参加しやすいプログラム運営
- 多種多様なプログラム運営
- 参加者のニーズ把握

多様な人が集まれる場所があるってええなあ~

僕も色々な活動に参加してみたいし、たくさんの人と会いたいなあ~



2 事例紹介 男性が地域で役割を持ち、繋がりを感じられる居場所として ~西京区 大枝学区『サロン・ド・よってっ』~

課題

- 地域ケア会議等にて「地域活動へ参加する男性が少ない」「男性は日中は畑仕事があり昼間は参加しにくい」「昼間に参加できて女性ばかりで男性は参加しにくい」等の地域課題を共有。

仮説

- 男性が参加しやすいよう、気軽に自由に過ごせる場として、夕方から開始すれば男性の参加も促進するのではないかと。

実施

- 学区民生児童委員協議会の会長を中心に、実務者会議にて男性の居場所の立ち上げの検討を行う。
- 開催頻度、開催時間(夕方~夜)、内容、案内方法等を決定し、男性の居場所を実施。

現在では10名前後の男性が参加しています。「地域に知り合いができた」「今日はあの人に来ていない」など、継続して参加することで参加者が顔なじみになり、お互いを気にかけて合うようになりました。またこの場が地域活動の情報交換の場となり、地域社会との接点が少ない男性が、自然な形で地域の中で役割をもって「生きがい」「つながり」を感じられる場となっています。



気軽に集える居場所があると、安心ですね!安心できる居場所が下京で増えるといいですね!一緒に作っていきましょう!



チャレンジアクション3

出番をつくる 活躍できる

テーマ設定の背景

- これまで「見守り活動=見守る側が見守り対象となる方を支える」だったが、見守り対象者には、豊富な知識や経験を持っている方が多く、活躍できる場の提供が必要です。
- 働き方が多様化している中で、地域活動も気軽に参加できる仕組みづくりが必要です。

1 取り組み推進のイメージ

①多様な見守り活動の推進

- わんわんパトロールの地域展開
- 見守り活動名簿を活用した見守り活動の充実
- 多様な団体と連携した見守り活動の展開
- 情報啓発を兼ねた見守り活動の展開

②ちよいポラ(軽易な助け合い)活動の創出

- 地域ニーズに基づいた支え合い活動の内容検討
- 地域支え合い活動創出事業と連携した活動の立ち上げ

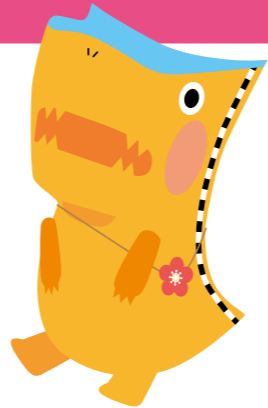
③社会福祉法人の地域貢献活動の推進

- 福祉施設と地域等が連携・協働した活動の支援

④趣味や特技を披露する場の提供

- 地域活動への敷居を低く、幅広い地域住民が活動に参加できる仕組みづくり

僕が「できること」って何だろう？
何かお手伝いできるかな？



できることを考えるが
活動への第1歩！
自分の得意不得意を
出してみるのもええで！



2 事例紹介 わんわんパトロール ~認定NPO法人アンビシャス(京都市)

課題

●1999年に飼い主が愛犬たちとできる社会貢献をという想いで、任意組織としてドッグセラピー等の活動をスタート。様々な活動をする中で、愛犬と地域を散歩中に、一人で歩く高齢者や、ひとりで下校する子どもなどが多いことをメンバーで共有。

仮説

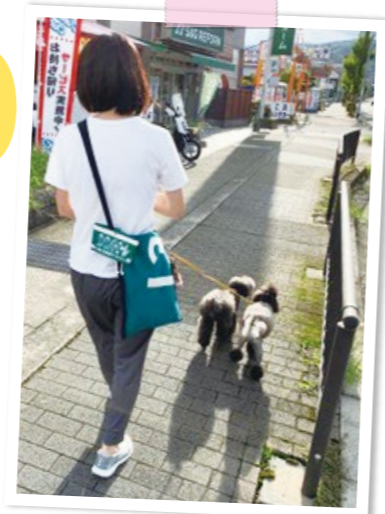
●地域を愛犬とお散歩しながらわんわんパトロールを実施すれば、地域に緩やかな見守りが可能となり、高齢者や子どもたちが安心安全に過ごせる、みんなに優しい地域になるのではないかと。

実施

●高齢者のお散歩時間、昼間の人通りのあまりない時間、子供たちの登下校の時間に合わせて腕章を着用し散歩しながらわんわんパトロールを実施。腕章を見た方が気軽に「おはよう」等の声をかけてくださり、顔見知りが一二人…とどんどん増えるようになる。その事で困っていそうな方がいれば「何かお手伝いしましょうか」等と地域の中で声をかけやすくなりコミュニケーションのある地域へと繋がった。

わんわんパトロールでは、散歩で歩いている人を見守るだけでなく、地域全体の見守りをモットーに、認知症の方で道に迷っている人、一人暮らし高齢者の安否確認等、地域福祉コミュニティ作りに貢献しています。愛犬を通じて高齢者や子どもとの会話が生まれ、地域のつながり・絆を強めることを意識し活動しています。

ちょっとした空き時間に
得意なことを活かして
活動に参加してみませんか？



6 コロナ禍での地域活動の展開 ~こんなときだからこそ!地域活動~

1 新型コロナウイルス感染症と地域活動

2019年に中華人民共和国湖北省武漢市で発生した新型コロナウイルス感染症(COVID-19)は、世界的に感染拡大しました。日本においては2020年1月16日に初の感染者を確認、その後国内でも感染拡大し、令和2年4月16日には全国を対象とした緊急事態宣言、令和3年1月14日には7都道府県を対象に再度緊急事態宣言が発出されました。

新型コロナウイルス感染拡大予防のため、学校の休校や、時短営業、外出自粛など様々な措置がなされ、地域活動にも多大なる影響をもたらしました。

今後、私たちは長期的に新型コロナウイルス感染症とともに生活をしていくことを余儀なくされると思います。新しい生活スタイルのもと、出来る限りの対策を取った上で、人と人の繋がりを絶やさず活動を進めていくことが重要になります。



まずは、自分の暮らしを大切に、そして無理なくできることから…

- 1 ご自身・ご家族が安心して暮らせることが最優先です。
- 2 地域の活動再開は、焦らず無理せず出来ることから始めましょう。
- 3 手洗い・うがいで感染予防、十分な睡眠・栄養、適度な運動で抵抗力を養いましょう!

(1) コロナ禍での活動再開前のポイント

- ◆活動の目的や開催方法を確認しましょう。
- ◆活動の注意点や体調不良者が出た場合の連絡の手順などを確認しましょう。

(2) コロナ禍での活動再開のポイント

- ◆これまでの活動を感染予防の対策を徹底して再開しましょう。
- ①検温・手指の消毒の徹底(担い手・参加者共に)
- ②マスク着用の徹底(担い手・参加者共に)
- ③換気の徹底
- ④ソーシャルディスタンスの徹底(2メートル以上空ける、スクール形式)
- ⑤会場定員の半数や2部制での開催 など

<活動例>

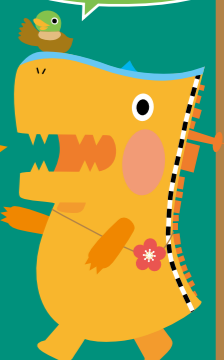
- ①電話、FAX、手紙、オンラインツール等を活用した非接触型の見守り活動の展開
- ②情報発信の強化! 広報紙の発行、SNSの活用など
- ③コロナ禍でのニーズ把握や、コロナ後の活動希望アンケートなど

安心して活動していただくために、新型コロナウイルス感染症を補償の対象とする「ボランティア保険」があります。区社協で受付していますので、お気軽にお問合せください。

周りの理解を得ながら、話し合って方向性を決めることが大切!

活動後には振り返りをして次に繋げよう!

この機会に新しいことに取り組んでみてはどうかな?



2 コロナ禍での 地域活動の実践と展望

経験したことのない感染症の流行で、令和2年度の取り組みの計画変更が余儀なくされました。地域の方が求めていることをアンケートなどで確認しながら、活動に取り組めました。



令和2年度 工夫して取り組んだ活動の実践

見守り活動ツールde見守り活動の充実を!

緊急事態宣言解除後、「コロナ禍で集まらない代わりに、見守り活動を充実させたい」「高齢者の方のためになる情報を提供したい!」というご意見を多数いただき、『お元気ですかカード』、『おうちでできるシリーズ』というお手紙と情報発信を兼ねたメッセージカードを作成し、学区の見守り活動で活用していただきました!

記事の内容は、地域包括支援センター、地域介護予防推進センター、区役所にご協力いただきました。『お元気ですかカード』はイラストが得意な区民の方にご提供いただき、大勢の得意なことを集結して作成しました!



得意なことを活かして、地域活動を展開できるといいね!

オンラインツールを活用した会議・研修会を開催!

新型コロナウイルス感染症の流行により、人と人が集まる活動をするのが難しくなりました。「オンライン帰省、オンライン飲み会」など連日報道されましたが、社協活動においても、「オンラインサロン、オンライン会議、オンライン研修」が実施されるようになりました。

そこで、下京区においても、オンラインツールを活用した会議や研修会を実践しています。まずは、役員や担い手の方にオンラインツールの活用講座を受講いただき、新たなツールを活用することへの抵抗感やハードルが徐々に低減したように思います。

オンラインツール活用に対するご意見

- オンラインツールを活用することで、時間を有効に活用できる
- 自宅で研修会を受講できると、感染リスクを低減できていい。
- 慣れると便利!
- これからも活用方法を勉強して、自分で会議を主催してみたい。 など



Zoom体験会の様子

私たちも最初はオンラインツールの活用に不安がりましたが、慣れるとすごく便利です! 皆さんも是非お試しください。



今後の活動の展開



新型コロナウイルス感染症は、三密回避や外出自粛など人々との繋がりを希薄化させました。

人と人とのつながりって、集まらないとむずかしいのかな?

色々な道具を使えば、集まらなくても、会わなくてもできるけど、会いたいな〜



新型コロナウイルス感染症に負けない!地域の絆を紡ぎつづけよう!

① ゆるやかな見守りでつながろう!



ゆるやかな見守りって何?

ひと言に見守りといっても、道で出会った際に挨拶をすることから、話し相手、専門職が関わる見守りなど様々な手法があります。(下図参照)「ゆるやかな見守り」は外出の際に、出会う人を気に掛ける、家の様子を気に掛けるということです。



見守りの様々な関わり



この4点が特に変化がわかりやすいポイント!

見守りのポイント

- 「衣類が季節に合っていない」
- 「見かけなくなった」
- 「新聞や郵便物がたまっている家がある」
- 「洗濯ものが出たままになっている」



必要に応じて専門機関につなぐ

区社協で「見守り支援の手引き」を作成しているの、関心のある方は是非お問合せください。

見守り活動にひと工夫! 家庭菜園づくりで地域の見守り力をアップ!

苗付きプランターの配布

- 「家庭菜園づくり」を通じた見守りの趣旨に賛同し、希望する世帯へ

各家庭で栽培

- 人の目のつくところで栽培
- 水やりや生育具合で話のきっかけに!

苗の成長とともに人がつながる

- 苗から育てることで、過程を楽しめ生きがい!
- 交流するきっかけに!

コロナ禍でどうしても自宅に閉じこもりがちな毎日…。

ペットボトルプランターを使用し、野菜や花の苗を植えたプランターを希望する家庭に配布して、苗の成長をお互いに楽しみながら「つながる」活動です。



苗木の成長で、達成感もあるな〜。



2 てがみ じょうほうけいはつ 手紙・情報啓発ツール(チラシ、カード)でつながろう!

紙とペンがあればすぐに書ける!

手書き、手作りのものは「あたたかさ」や「想い」が伝わります。季節の移ろい、体調を気遣う内容など、「気にかけている」ことを伝えていくことで、会えなくても絆は紡ぎ続けることができます。

活動例

- 往復はがきでの見守り活動!
双方向のやり取りが可能。
- 脳トレクイズを配布して、答え合わせも兼ねて電話で安否確認!声を聴いて安心!

(出典:京都市地域支え合い活動創出事業「今こそつながろう!」)

会えないときこそ、手書きの手紙は人のあたたかさを感じるなあ〜

絵手紙、水彩画、ちぎり絵など、京都市内の老人福祉センターで講座をしているんだって!

※各センターによって実施状況が異なりますので、各センターまでお問合せください。

3 オンラインでつながろう!

“若い人”が活用するものって思っていますか?

感染リスクを避ける手段として注目されている「オンラインツール」(Zoom、LINE、Skype)。スマートフォンやパソコンを使って活用してみましょう!

まずは、スマートフォンでビデオ通話体験からはいかがですか?

オンラインのデメリット

環境整備が大変

使えないと参加できない

オンラインのメリット

顔を見て話せる

自宅で地域の人と繋がる

複数会場で同時開催が可能

オンラインツールを活用した会議や研修会の開催がコロナ禍で増えてきています。「ちょっと難しいなあ」「どうしたら使えるのだろう?」と悩んでいる方は京都市福祉ボランティアセンターで講座の開催があったり、ボランティアの方が有志で「オンライン活用相談会」をしたりしていますよ〜。

僕はオンラインツール得意だから教えられるかも!

得意なことを活かして、活動できるのもいいね!

(出典:京都市地域支え合い活動創出事業「今こそつながろう!」より抜粋)

4 ソーシャルディスタンスでつながろう!

他市町村の居場所づくり活動では、これまでの活動拠点では三密の回避が難しいということから、毎回会場を変えて行う「出前居場所」や公園や河川敷を利用して「青空居場所」を展開しています。

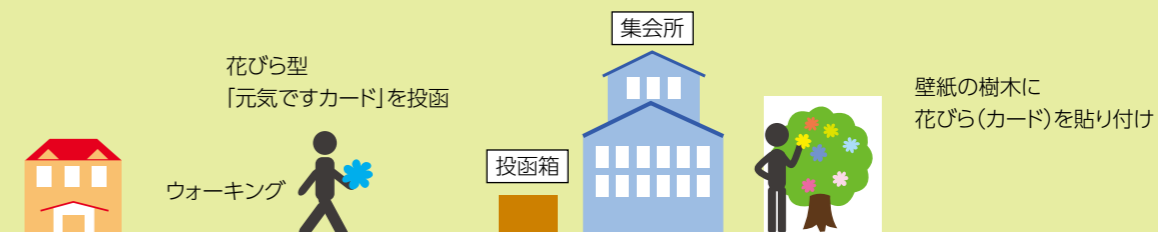
同じ会場で実施することは、定例の参加者の方は安心ですが、新しく参加希望される方は、「参加者が固定されていて参加しづらい」「会場が違う場所だと参加できるのに」と思っている方もいらっしゃるかもしれません。

「出前居場所」だと毎回場所が変わるので、これまで参加できなかった方も参加できるようになると思います。また、お天気のいい日の「青空居場所」ってなんとなく気分がいいと思いませんか?



みんなが集まることができなくても、つながる「介護予防・見守り」

- ① 活動の拠点となっていた集会所等に「元気ですカード」投函箱を設置します。
- ② 居場所参加者がウォーキングや散歩をして集会所等に行き、「元気ですカード」(花びら型)に近況やみんなへのメッセージなどを書いて投函します。
- ③ 運営者が「元気ですカード」を集会所等の壁に掲げた大きな木の絵に添付し、花を咲かせます!



屋外での居場所づくり~身近な公園を活用した健康とつながりづくり~

コロナ禍でも、身近な公園で気軽にできるラジオ体操やウォーキング等は、つながっていることの実感や、ゆるやかな見守りに繋がります。密になりがちな屋内のつどいは休止になっても、屋外で実施するラジオ体操では、お互いが気に掛けあう姿が多く見られます。



ラジオ体操だったら僕もできる!

広い公園だったら、密は避けられるし、換気も十分な!

新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため、これまでと同じ活動が出来なくなりました。支援者からは、「外出自粛による体力低下や孤立が心配」「生活意欲の低下が心配」といったような声をよく聞きます。“できない”ではなく、“何か”できるか”、“何か”必要か”を考え活動することがとても大切です。地域の繋がりを紡ぎ続けるためにも、新たな活動にチャレンジしていきます!

いっしょ
ぼくたちと一緒に
ちいき
地域のことを考えよう!
かんが

なん きょうみしんしん
何にでも興味津々!
しゃきょうりゅう さい おとこ
社協竜の5歳の男のコ
シモリュウくん

わからないことがあったら、
すぐにかもがわさんに聞く。
物知りで優しいかもがわさんに憧れて、
自分もいつかあなりたいと夢みている。
できれば自分も空が飛びたい。

ものし
物知りで、
からだ ちい ところ ひろ
体は小さいけど心は広い!
かもがわさん

鴨川に住む鴨のかもがわさん。
シモリュウくんの父のような存在。
京都弁でなんでも教えてくれる。
飛び方だけはどう教えたらいいかわからない。



2021(令和3)年3月発行

第Ⅳ期 下京区地域福祉活動計画 (下京やさしいまちづくり計画2025)

～「新しい生活スタイル」を取り入れた地域活動の展開～

社会福祉法人 京都市下京区社会福祉協議会
下京区地域福祉推進委員会

〒600-8166 京都市下京区花屋町通室町西入乾町292 下京区総合福祉センター内
電話:(075)361-1881 FAX:(075)361-1663

